

「農地を活かし、地域を育てゆく」を合言葉に、地域の農業振興に取り組みます。

第61号

2025年2月

くにたち 農業委員会だより

発行：国立市農業委員会



第47回国立市農業まつりが開催されました

令和6年11月9日(土)、10日(日)の2日間「第47回国立市農業まつり」が、市役所ロビーと西側広場、谷保第四公園にて開催されました。両日とも市民の皆様にも多数ご来場いただき大盛況でした。市役所ロビーでは農産物品評会も開催され、市内農家が育てた野菜と果物が出品されました。今年は異例の猛暑が続き各農家の方々の野菜作りは大変苦勞されたと思いますが立派な成果物が出品されていました。会場では農業委員会、城山さとのいえの活動展示をはじめ、野菜の宝船、農機具展示、農協青壮年部の野菜販売、JA東京みどりの模擬店、商工会女性部の飲食販売のほか、ブラスバンドによる生演奏、キッチンカーの出店やワークショップもあり、大変賑やかなまつりとなりました。

結びになりましたが、各協力団体等関係各位の皆様のご協力により2日間の農業まつりを無事終了することが出来たことを心より感謝申し上げます。

(文：遠藤委員)



▲宝船作成のお手伝い



▲農業委員会活動のパネル展示



▲来場者へ苗木の配布

令和6年度国立市農業まつり農産物品評会について

第47回国立市農業まつりにて実施された農産物品評会の表彰式が12月17日に国立市役所にて執り行われました。特別賞を受賞された方は、下記の皆様です。(敬称略)

東京都知事賞	杉田 幹男	ほうれん草
国立市長賞	佐藤 英明	柿
国立市議会議長賞	遠藤 恵美子	にんじん
国立市農業委員会 会長賞	北島 直芳	かんらん
東京みどり農業協同組合 組合長賞	佐藤 英明	梨
東京都農業協同組合 中央会長賞	杉田 幹男	ブロッコリー
全国農業協同組合連合会 東京都本部長賞(家庭菜園の部)	大庭 敦子	ブロッコリー



学校給食への地場産農産物普及に向けた取組について

学校給食への地場産野菜使用率が年々低下していることを受け、東京みどり農業協同組合経済センター国立店、くにたち食育推進・給食ステーション及び市は、その対策を検討するための検討会を開催し、使用率の向上を目指しています。農家さんにとって円滑に出荷が出来る仕組みづくりのために、東京みどり農業協同組合経済センター国立店では、「国立地区学校給食部会(仮称)」の立ち上げを目指しており、市としても奨励金の検討を進めております。

ご興味がある方がおりましたら、下記連絡先までご連絡ください。簡易パンフレットをご用意しています。

問合せ内容	問合せ先	電話番号
納品のフローに関して	くにたち食育推進・給食ステーション	042-576-2111(内線525)
事業全体及び奨励金に関して	国立市都市整備部南部地域まちづくり課 農業振興係	042-576-2111(内線345,346)
国立地区学校給食部会に関して	東京みどり農業協同組合経済センター 国立店	042-572-0078

令和7年度 生産緑地地区追加指定申請受付について

令和7年度の生産緑地地区追加指定の申請受付が、下記のとおり実施される予定です。生産緑地指定解除後に転用せず引き続き農地として利用している場合や、過去に農地転用の届出をされている農地でも一定の基準を満たしていれば申請できます。指定申請できる農地の面積は、300㎡以上(一団を含む)です。

- 期間 令和7年4月14日(月)～4月25日(金)(予定)
 - 時間 午前8時30分～午後5時
 - 場所 市役所3階50番窓口 都市計画課
- ※農地の一部を生産緑地として追加指定する場合は、
分筆をする必要があります。

詳しくは…
都市計画課もしくは、
農業委員会事務局に
お問い合わせください。



令和7年3月で城山さとのいえは10周年を迎えます!

楽しい企画がたくさん!
ぜひ、ご来場ください。



農業体験と農業の情報発信の拠点として開設された「城山さとのいえ」も今年で10歳になります。これからも「城山さとのいえ」を広く知っていただくために10周年イベントを開催いたします。

- 日時 令和7年3月16日(日) 午前10時～午後2時
- 場所 城山さとのいえ、城山公園

※詳しくは、市報2月5日号をご覧ください。

稲作体験学習会事業を実施しました

令和6年10月24日(木)、市内8校の小学5年生532名による稲刈りが行われました。オープニングセレモニー後、注意事項を聞いて3校ずつ田んぼに向かいました。田んぼでは怪我をしないように鎌の持ち方、稲の刈り方、稲の縛り方を聞いて2人一組になり刈る作業、縛る作業を交替で行いました。慣れるまでは刈るのも難しいようでしたが、だんだん調子が良くなり横の人の分まで刈ってくれる児童もいました。でも縛るのはなかなか難しいようでした。途中作業が止まっている児童たちの話では「何か変な虫がいるよ」「怖いよ」など賑やかでした。稲刈りもスムーズに進み、最後は稲束を掛け干して作業は終了しました。10月31日(木)に農業委員会で脱穀を行い、玄米で246kg、精米196.7kgになり、精米は各校に届けることができました。

ご協力頂きました関係各位の皆様、子どもたちへの温かいご指導を感謝いたします。
(文：小鹿倉委員)



▲農業委員による児童への稲刈の説明



▲5年生児童による稲刈りスタート



▲真剣に稲刈り作業に取り組む児童の皆さん



▲農業委員による事前準備



▲農業委員による脱穀作業



▲2人一組になって稲を縛る様子

農地利用状況調査を実施しました

農業委員会は、10月11日に市内の農地の総点検である「農地利用状況調査」を実施しました。これは農地法に基づき農地制度の適正執行や農地の有効利用の促進を図るため、農地の利用状況についての調査を行うもので、市の都市計画係職員と固定資産税係職員とも協力して、調査を行いました。今年は特に、相続により農地がかなり減少してしまったことが印象に残っています。その様な中でも指導対象農地が昨年を上回る16件に増えてしまいました。

これは夏季の猛暑や、大雨に対し、耕作者の高齢化が重なった事によるものと感じました。指導内容としては、雑草の繁茂や耕作が出来ていない状態が多くを占めていて、対象者には口頭や文書による指導を行い、改善をいただいています。諸事情により耕作が厳しいような方は、農地の貸借等の対応策もありますので、農業委員又は市役所の農業委員会事務局にご相談いただければと思います。

農地は生産緑地、宅地内農地も含めて税制上の優遇がされています。日頃から農地の適正な管理をお願いいたします。
(文：関委員)



※写真の農地は指導対象農地ではありません。

くにたちの農を担う

認定農業者紹介 vol.8

遠藤 利光さん（中平地区）

今回ご紹介するのは、中平地区の遠藤利光さんです。遠藤さんは果樹栽培を主としていらっしゃいますが、野菜栽培も多品目の作付けをされています。農業経営は庭先直売やしゅんかしゅんか（直売店）への出荷で地産地消をモットーとされています。また、小学校や保育園の食育授業にも協力する等「地域の農家さん」として親しまれています。農業委員会会長も歴任され国立市の農政にも尽力された遠藤さんにお話を聞きました。

■営農の特徴についてお聞かせください。

鮮度のよい状態の野菜を販売したいと考えているので、販売は庭先販売、無人直売所としゅんかしゅんかへの出荷に限定しています。特に鮮度が味を左右するとうもろこしや枝豆、ブロッコリーは収穫したてを販売しています。

果樹の栽培については成果品の向上を目指して研究しているところで、ぶどう棚の整備や、色々な品種のぶどうの取り入れを行って、収穫量と品質の安定を目指し奮闘しているところです。また、顧客のニーズにできるだけ応えたいと考えているので、ピーツのようにお客様の声を聞いて栽培を始めた野菜もあり、品種はだんだんと多くなりました。



▲色とりどりの野菜が並ぶ庭先直売所

■果樹の栽培をされていますが、果樹栽培で難しいところがありますか。

鳥獣害の被害は深刻なので、対策には力を入れています。鳥獣害の被害はゼロを目指したいので、東京都農業振興事務所のアドバイスを受けたり、柵の形状の改良や、鳥獣害対策アイテムの設置を試しています。

収穫については、ぶどうの摘粒と桃の収穫時期が重なってしまうので、品種の入れ替えをする等の検討をしているところです。



■認定農業者制度をどのように活用されていますか。

補助金については、主に農業用施設のメンテナンス費用に充てています。昨年はハウスの張替の費用にも使用しました。その他、肥料等の購入にも使っているので毎年の補助金の支給は助かります。

■農業委員会会長を歴任されて思うことはありますか。

国立市の農業は都市農業のなかでは希少である水稲ができる農地があるのが特徴です。これは子どもたちの食育にも良い影響を与えていると思います。農業委員会による小学生対象の稲作体験学習会事業はこの特徴を活かしており、とても有意義だと思います。

■今後の営農についての展開を教えてください。

ぶどうの栽培を主力にしていきたいと思っているので、作業効率の向上を図るために東京都都市農業経営力強化事業を利用してぶどう棚を一字短梢剪定に新設しました。

また、需要の多い野菜（枝豆、とうもろこし）の作付け面積を増やしていきたいので、脱莢機を導入し、収量の拡大を図っています。

引き続き多品目栽培で、庭先販売を主に消費者ニーズに応える品種の栽培を行い、地域の皆様においしい野菜を提供していきたいと思っています。



▲一字短梢剪定のぶどう棚